

資料一2 第5回検討会の意見と対応

前回検討会での意見とその対応

No.	テーマ	発言者 (敬称略)	第5回検討会の主な意見	意見に対する対応
1	意見と 対応	高取	<ul style="list-style-type: none"> • しっかりした堤防を作ったうえで、多自然川づくりの考えも取り入れた景観上の工夫をしてもらいたい。 	水際線部を覆土するなどして景観配慮を行う。
2		平野	<ul style="list-style-type: none"> • 地震後の地殻変動により地盤高さが戻っているので、施工高について見直すべき。 	地盤の隆起については認識しているが、水準点が改訂されていない現状では対応が困難。
3		今野	<ul style="list-style-type: none"> • 河口部に砂が溜まっているが、最終的には取り除くのか。 	河口の砂は海水浴場の方に覆砂したい。
4	景観	平野	<ul style="list-style-type: none"> • 堤防法尻が直線のままだと構造物が浮いて強調されるため、地盤線にアンジュレーションを付ける工夫をしてほしい。 	川表側は対策が可能だが、川裏は用地の制限が有り対策できないのでご了解いただきたい。
5	施工時の配慮	高取	<ul style="list-style-type: none"> • 環境調査については、専門家を入れて実施しており、調査結果も全体の生態系が見える結果となっており、きちんとした調査になっている。 • 環境配慮について、作業員に研修を行うのは良い。 	(報告事項につき対応なし)
6		鈴木	<ul style="list-style-type: none"> • 干潟の調査方法については、「水辺の国勢調査」による方法より、環境省のモニタリングサイト1000の調査方法、若しくは環境生態系監視調査によるほうが良い。 • 定量調査の掘削深さは30cm程度にした方が良い。 • 定性調査は陸側のヨシ原の方まで実施すると良い。 • 希少種の手配書などを作成し、作業員に周知出来ると良い。 	今後の調査については、意見を参考に実施したい。
7		平野	<ul style="list-style-type: none"> • 環境に配慮した施工をしていることを公開していくことが重要。 	検討会の結果のほか、取り組み状況をチラシやHPで公開していきたい。
8	その他	平野	<ul style="list-style-type: none"> • 駐車場のデザインの進捗状況を教えてほしい。 	復興交付金の範囲内となり、現時点で申請中のため、これから詰めていきたい。